

がんばろう 南三陸町 復興第27号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所 千葉総合印刷株式会社 本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84 TEL(46) 3069 FAX(46)3068 志津川広報センター 企画・編集 千葉伸孝

志津川地区「町づくり協議会」の高台移転、公園・商工の3部会の活動を報告

志津川市街地の先行嵩上げと、う回路整備

第12回産業再生部会・第14回公園合同専門部会が、1月16日6時半から開催され、13名の参加者と委任状30名により、会の成立となった。

初めに行政より報告があり、市街地の嵩上げに伴う「う回路」のルートが報告された。国土交通省東北地方整備局・仙台河川国道事務所から、1月14日の地元への説明書により、国道45号・国道398号の被災志津川市街地の、う回路説明が合同部会を含め開催された。住民の集まる場所でも説明された。

旧国道45号から先行する区域の嵩上げにより、「う回路」の整備がされる。1～2月に区画が設定され、3～4月に地権者説明、4～5月に工事が開始され、6～7月には共用開始となるという。生活道路確保という事で、初めに45号の嵩上げをする。嵩上げに現道路のアスファルトの撤去、現道の山側の直ぐ隣に、上の山を包むように新国道45号が整備予定で、水尻川から新井田までのルートが嵩上げの「う回路」として示された。

現在五日町は「ショッピングモール」の場所確保ということで、仮設商店街の移転候補地としても嵩上げが先行で行われている。この場所は上の山の山裾を通り、嵩上げは「10m」を予定する。

災害公営住宅仮申込み (平成25年11月12日現在)

Table with 8 columns: 地区, 戸数, 集合住宅 (2K, 2DK, 3DK), 戸建住宅 (3DK, 4DK), 造成完了予定

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年(2013年) 12月の出来事 ~ 地元報道より ~

◆イーグルス 南三陸町で優勝報告会

東北楽天ゴールデンイーグルスの優勝報告会が12月1日、南三陸町のさんさん商店街で開かれた。仙台市出身の齋藤投手や、牧田外野手が来場。町内をはじめ、近隣市町などから駆けつけたファン約2000人を前に初の日本一を報告した。



歌津復興商店街 にぎやか2周年イベント開催 (1月の歌津商店街風景) ●戸倉防潮堤・河川堤防、国道建設加速!

◆新生志津川中の制服決まる

南三陸町立志津川中学校と戸倉中学校が統合し、26年4月から新生志津川中学校が誕生するのに伴い、新たな制服が決定した。

現在の制服は志津川の男子が学生服、女子がセーラー服。戸倉は男女ともブレザーで、新しい制服では、男子はブレザー、女子はセーラー服に統一する。新年度の入学生から着用する。

◆HPで整備状況見える化

南三陸町は「復興見える化」として、住まいに関する事業の進捗状況を町ホームページで伝える取り組みをはじめた。町民からの「復興状況が見えない」との声に応え、防災集団移転28団地と災害公営住宅8カ所の整備状況が掲載されている。

◆住宅再建ヘスクラム

南三陸町内の建設関係企業で組織する南三陸里創建みらいグループが、南三陸版復興住宅プロジェクトを進めている。これから本格化してくる住宅建築に地元業者でスクラムを組んで対応していく取り組みで、歌津伊里前地内にモデルハウスが建設されている。

◆エリアメール自動配信へ

南三陸町は、携帯電話などへ配信する防災情報メールの第1報を自動配信に切り替えた。これまでは気象庁の発表を受け、町職員らが文章を打ち込んで一斉送信していたため、発表と配信に大きな時間差が生じていた。自動配信により発表から配信まで1分程度となり、避難など迅速な対応につながるかと期待されている。

◆市街地デザイン 建築家隈氏に委託

南三陸町は区画整理事業で整備する八幡川左岸のランドデザイン作成を、世界を舞台に活躍する建築家・隈研吾氏に委託した。デザインは本年度末までに仕上がる予定となっている。

◆歌津でアワビ祭り

南三陸町歌津の伊里前福幸商店街で12月23日、「歌津アワビ祭り」が開かれた。会場には朝早くから行列ができ、年末年始の食材を買い求める人たちがにぎわった。

◆藤浜防集第1号 10区画完成

南三陸町が防災集団移転事業で整備を進めている戸倉藤浜団地の造成工事が完了し、12月21日に竣工式が行われた。式には町や藤浜地区をはじめとする関係者約60人が出席し、テープカットなどで造成完了を祝った。

18 漁港が年度内復旧完了



清水漁港の復旧工事が急ピッチで進む

南三陸町が管理する19漁港のうち18漁港が本年度末までに災害復旧工事を終える予定となった。残る細浦漁港も年度内完成を目指していたが、工事中だった物揚場の護岸の一部が倒壊したことで事業が中断。原因は「軟弱地盤によるため」としており、工事完了時期は未定となっている。

◆子供たちが写真撮影

南三陸町の子供たちが「誰かのために頑張っている町民」を写真に収めるイベントが12月27日から始まった。町内の5歳から小学6年生までの17人が参加し、27枚撮りの使い捨てカメラを使い、「誰かのために頑張る南三陸人」を探して撮影する。写真は後日撮影に協力してくれた町民に贈って日頃の頑張りに感謝する予定だ。

水尻川から駅前に向かい、旧本吉クボタ前を真っ直ぐに八幡神社へ、そこから上の山避難場所の山沿いをぐるり通り、農協のあった新井田川までが「う回路」となる。漁民の方々の市場までの本浜を通る道路は当分は通行出来るという。市街地の嵩上げは進み中で、志津川清水線の志津川市街地も10mとなるので、今後は一帯全てが通行止めとなる。



志津川清水線の志津川市街地も10mとなるので、今後は一帯全てが通行止めとなる。

災害公営住宅の整備目標戸数

平成25年11月12日現在の入居仮申し込みがあり、戸倉地区69戸他歌津地区など4地区で162戸、志津川地区の整備は東257戸・西90戸・中央が142戸で、720戸の意向が提出された(25年8月7日～9月9日の期限)。

意向提出フォローアップで意向変更が162世帯あり、戸建土地希望から今後の生活を考慮し、公営住宅の変更や隣市への自己住宅再建を進める世帯も多い。

平成24年10月の当初整備目標戸数が、8地区合計で930戸だったが、平成25年11月12日現在の受付戸数は720世帯となり、整備戸数の町の案として、予備の住宅を含め、「770世帯」の整備と全ての報道新聞が住民に伝えている。

平成26.1～平成26.2月 資格審査及び地区選定 整備戸数が希望戸数を上回る場合は、地区決定のため抽選を実施

※ 詳細は南三陸町復興推進担当課へ

志津川地区 津波復興拠点整備事業

志津川 3 地区の整備、東地区東が先行造成

第14回高台移転部会が1月9日ポータルセンターで行われた。参加メンバーは6名で委任状も6名で12名の参加となり、会は成立した。行政からの説明と高台移転の議論が交わされた。

今回は西区の移転の場所を決めるシュミレーションが行われた。参加した方々は他2地区の時も参加され、その状況は理解でき、傍聴の参加者も高台部会のテーブルに入る事で、今後の生活場所の情報を得られる。移転の在り方・方法が、行政・部会の造成推進報告と共に議論された。高台移転部会の22名前後の会員の任期もあとわずか、再度部会員の募集が始まる。

今回は高台移転の土地の価格と、造成引き渡しの大括りでの時間経緯が報告された。被災住民が一番気になる土地の価格が発表となった。基本的には100坪を対象として、東地区の東が坪当たり56,100円から62,700円で、借地が月100坪当たり6,600円から7,400円、東の西と東の北は同じ金額であった。中央区は坪当たり52,800円から59,400円で、借地は月100坪当たり6,200円から7,000円で、西地区の東・西は坪当たり49,500円から56,100円で、借地は月100坪当たり5,800円から6,600円となった。

価格の差は土地の評価額で、造成経費とは関係ないと言う。しかし、被災地の土地買い上げ価格の差に、土地取得の大変さを感じる。

最終的な3地区の土地希望決定を、26年1月17日から個別相談を各地で開催する。26年春までには土地の「決定」「登録」と、土地の区割り決定で本格造成となる。当初の造成面積が減る事はないが、地区形成で必要とさせる施設の確保に残った土地が活用される。

平成26年春から27年春までの一年間は、登録に応じた団地計画の見直し、情報の発信提供をする。27年春に宅地申込み・宅地決定と

なる。決定からのこの一年間の被災住民の気持ちの維持を行政はどう対応して行くのか配慮が必要だ。そして平成28年3月に完了を目標に順次完成土地引き渡しで、地権者となり建設工事となる。先月配布の「マイタウン情報」に高台移転情報の掲載に力を入れると掲載すると、その反響に住民は何を求めているかがわかる。行政から聞き取り高台移転の現状を、高台移転部会会員の一人として伝えていきたい。

防災集団移転

(平成 25 年 12 月 21 日現在)

地 区	戸 数	造成完了予定
志津川東	200	平成28年3月
志津川中央	145	平成28年3月
志津川西・保呂毛・田尻畑	90	平成28年3月
合 計	435	

志津川市街地高台住宅団地登録開始

◎平成 26 年 1 月 17 日～2 月 末 迄

(高台団地登録個別相談会)・団地登録申請書提出・受付
一(必要に応じ)希望団地調整(町と対象者で個別に調整)一

◎平成 26 年 春 頃 団 地 決 定 ・ 通 知 (= 登 録) 予 定

(登録者数に応じた)団地計画の見直し変更

役場相談窓口 ▶ 復興市街地整備課 復興拠点整備係へ

平成 26 年 1 月 9 日の町協高台移転部会報告より 該当住民への周知



未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年(2013年)

11月の出来事

～地元報道より～

◆3年ぶりの町民文化祭

南三陸町の町民文化祭が11月3日、ベイサイドアリーナで開かれた。震災後は休止となっていたため、3年ぶりの開催となった今回は、舞台部門に20団体2個人が参加。久しぶりのステージを楽しみながら練習、稽古の成果を発表した。

◆名足、伊里前小でお別れ会

南三陸町立名足小学校の児童が元の校舎へ戻るのを前に、併設されていた伊里前小で11月5日にお別れ会が開かれた。

進行役は両校児童会が務め、学年ごとに用意したメッセージカードの交換や両校校歌の披露、ゲームなどで遊び、楽しい思い出をつくった。最後は両校応援団の掛け声で児童たちが手拍子をしながらかみを送り合い、中学校での再開を誓った。

◆交流の場リニューアル(歌津平成の森)

南三陸町の平成の森に設置され、仮設住宅入居者らの交流の場になっている「カフェ・あづまーれ」がリニューアルされた。11月3日には新装オープンセレモニーが行われ、関係者が祝合い、さっそく新しくなったカフェでお茶やコーヒーを飲みながら世間話を花を咲かせた。

戸倉中最後の文化祭

(26年度は志中と統合)



平成 26 年 2 月 地 元 求 人 事 業 所 か ら

入居者募集

- 施設名 特別養護老人ホーム 慈恵園
- 定員 長期入所 50名 短期入所 20名(予定)
(全室ユニット型 個室 7ユニット)
- お申し込みのできる方
要介護1～5と認定された方で、身体上または精神上に障害のあるため、常に介護を必要とし、在宅で介護を受けることが困難な方です。なお、医療的対応が必要な方については、ご相談ください。
(入所の相談・申し込みは生活相談員が担当させていただきます)
- お申し込みについて(必要書類)
① 入所申込書(印鑑も忘れず押してください)
② 介護保険証の写し
③ 介護保険負担限度額認定証の写し(ある方のみ)

職員募集

- 介護職 20名程度 2 看護職 若干名
(経験問いません)
- 管理栄養士 1名

特別養護老人ホーム 慈恵園

南三陸町入谷字山の神平31-2 入谷福祉仮設住宅内
TEL 0226 (46) 6046 FAX (46) 6048
【問合せ・受付担当 星】

◆観光特区申請に向けて

南三陸町は本年度内の観光特区申請に向けて準備を進めおり、11月13日に開かれた産業振興審議会では計画の素案が示された。区域は国道沿いの低地部に町内全域で点在させる形で指定する予定。税制優遇を受けられる区域に観光、商業を中心とした業種を集積させ、交流人口の拡大につなげたい考えだ。

◆いきいき発表会

南三陸町包括支援センター主催の「いきいき発表会」が11月19日、南三陸ホテル観洋で開かれた。南三陸町出身の南方仮設住宅入居者で組織する「南方団地高齢者クラブ」が生活不活発病予防のためにやっている活動を紹介。健康づくりの大切さを訴えた。

◆フィリピンへ支援物資送る

南三陸町は、台風30号で甚大な被害を受けたフィリピンに支援物資を送る。町も復興途上だが数多くの善意に助けられた経緯から、「苦しさが分かる自分たちの責務」として支援を決定した。

支援物資は大震災以降に町が受け入れた備蓄品から町民が今すぐ必要としないものを選び、ほかにカップラーメン5000食を購入して送る。

◆地域の交通対策に尽力

南三陸地区安全運転管理者会がこのほど、交通安全功労団体として県知事表彰を受けた。

同地区安管は約90の民間事業所や公的機関で組織されており、震災直後には会員事務所が率先して国道398号などで重機を使ってがれき撤去を行った。復興事業の本格化に伴い増加した大型車両には県内で先駆けて黄色い旗を取り付けて安全運転を促すなど、活動が高く評価された。

新井田館遺跡発掘説明会



◆志高生が450万円寄付

志津川高校情報ビジネス科の生徒たちが、モアイグッズの売上金など450万円を南三陸町に寄付した。生徒たちは22年度から地域活性化と防災意識の向上を目的に「モアイ化計画」を開始。モアイグッズの製作・販売などを行ってきた。寄付の目標は800万円としており、今後も全国に発信しながらグッズ販売を継続していく考えだ。

◆移転必要の仮設店舗も

南三陸町志津川地区の八幡川堤防、国道398号、同45号の災害復旧事業説明会が11月28日に町役場で開かれ住民ら約40人が出席した。事業によって仮設店舗の移設などを余儀なくされる住民もあり、県は個別相談にも応じていく考えを示した。